

CONTENTS

推薦の言葉	2
刊行にあたって	3

第Ⅰ章 包括的歯科治療の重要性 9

1. 包括的歯科治療とは……………	10
■ 参考症例 1：矯正治療なしには良好な結果が望めない症例	11
■ 参考症例 2：過大な咬合力と側方圧によってインプラントが脱落した症例	13
■ 参考症例 3：1本の欠損補綴だが多くの選択肢が考えられる症例	15
2. 包括的歯科治療の現状……………	18

第Ⅱ章 診査・診断・治療計画 (歯だけを診るのではなく、顔面や口腔内全体を診る) 21

1. 診査・診断の重要性とその実際……………	22
■ 緊急処置	23
■ 診査①：基礎資料の収集	23
■ 適正な下顎位とは	26
■ 中心位(Centric Relation)とは	27
■ 中心位(Centric Relation)の定義の変遷	27
■ 咬合高径(垂直的な下顎位)	29
■ 顔面写真	30
■ 診査時の重要なポイント	31
■ 参考症例：中心位の落とし穴、咬頭嵌合位で全顎補綴を行った症例	32

2. 治療計画の立案…………… 36

- 総合診断①：治療方針決定のための治療計画 36
- 診査②：追加資料の収集 36
- 総合診断②：治療方法決定のための治療計画 38

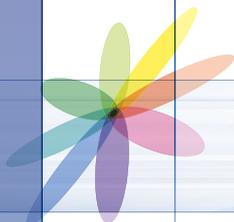
3. 審美と機能—TOPアナライザーコンセプトによる デジタルとアナログの融合…………… 40

- よく見られる間違い 40
- CTの情報活用法 43
- デジタルとアナログの融合 45
- 矯正のセットアップモデルと補綴の診断用ワックスアップの重要性 46
- なぜ従来の模型診断では正確性を欠くのか 47
- フェイスボウ・トランスファーの変遷による誤解 50
- 「誤解：その2」を検証する 51
- 下顎の回転運動と上下顎骨の大きさの再現 53
- エステティックマウント 54
- TOPアナライザーシステムの開発と特徴 58
- TOPアナライザーの基本的な使い方 61
- KaVo社のPROTER咬合器への装着 64
- TOPアナライザーサポートを使用して咬合器にマウントする場合 66
- Column：アルクスディグマⅡとTOPアナライザーシステム 67
- 症例供覧：TOPアナライザー開発のきっかけとなった症例 80

第三章 包括的歯科治療の進め方 87

1. 歯周治療…………… 88

- 歯周基本治療 88
- 歯周外科処置 90
- 症例供覧：矯正治療と歯周治療 92



CONTENTS

2. 治療顎位とアプライアンス療法(スプリント療法)……………	98
■ 治療顎位の決定	98
■ Column：クリックとクレピタス	99
■ 顎関節症の治療	99
■ アプライアンス療法(スプリント療法)	100
■ 症例供覧：アプライアンス療法と矯正治療で顎関節症状が改善された症例	101
3. 矯正治療……………	108
■ 矯正学における診断の変遷	108
■ 包括的歯科治療における矯正治療の診断方法	109
■ 一般歯科医と矯正専門医とのコラボレーション	114
■ CTだからわかる新しい矯正治療の診断基準	118
■ 矯正治療の限界を超える戦略	120
■ 症例供覧：上顎前歯部の歯根吸収を起こしたが、固定せずに術後17年間安定している症例	123
4. インプラント治療……………	128
■ 包括的歯科治療におけるインプラント治療	128
■ インプラント治療における考慮すべき要件と優先順位	131
■ 上部構造物の固定様式	132
■ 筆者の上部構造選択のガイドライン	134
■ インプラント治療と矯正治療のタイミング	136
■ 症例供覧：田ヶ原の分類のタイプⅢの症例	138
5. 補綴治療……………	149
■ 適正で生理的な咬合高径と下顎位	149
■ 安定した咬頭嵌合位と咬合面形態	150
■ 顎運動と調和したアンテリアガイダンスとポステリアツースガイダンス	155
■ 顔面やスマイルと調和した審美性	159
■ 補綴物の強度と生体親和性	160
■ メインテナンスしやすい補綴物形態と適合精度	160
■ トピック：クロスマウント・テクニック	161

第IV章 顔面の審美から考える包括的歯科治療

165

包括的歯科治療の実際..... 166

- 診査・診断 166
- 治療計画の立案 168
- 歯周基本治療 169
- インプラント治療と矯正治療 169
- 補綴治療 169
- メインテナンス 170
- 包括的歯科治療のゴールとは 170
- 症例供覧：包括的歯科治療の組み立て方の実際 174

参考文献..... 184

索引..... 186

